

出演者の一言集



1. 中澤 忍 「鎌倉」「庭の千草」

この日の記念すべき指笛音楽研究発表会に出演させていただき大変うれしく、感謝の念でいっぱいです。今日のピアノ伴奏石塚幸子先生のご指導をいただき5ヶ月間に互(わた)り練習を重ねて参りました。今日は指笛音楽創始者田村大三先生に、そしてご来場の皆様の心に響きますように、一生懸命に指笛演奏をしたいと思ひます。

2. 有賀 猛 「アメイジング・グレース」「昴」

田村大三先生生誕100周年記念指笛音楽研究発表会に参加できる事を感謝致します。「アメイジング・グレース」はニュートンという英国の神父が作詞した賛美歌です。「昴」は映画「天平の薨」のテーマソングとして作曲された曲です。指笛音楽は先生からの(無上なる贈り物)即ち(アメイジング・グレース)です。心を込めて演奏したいと思ひます。

3. 栗田 勲夫 「翼をください」

指笛と出会って7年。発表会に出るようになって5年。歌とピアノの音楽ユニット「びより」を結成して3年。指笛音楽の可能性を模索しながら活動しております。今回は指笛、歌、ピアノを合わせてアレンジした「翼をください」を演奏します。指笛の魅力を考えながらピアノの岩澤君とともに作り上げた世界観をお楽しみいただければと思ひます。

4. 片井 久夫 「少年時代」「赤とんぼ」

信州佐久から久しぶりに参加させていただきます。いろいろ夢を見ていた子供の頃を思いながら、皆様にも昔の懐かしい思いを振り返っていただければと思ひます。住まい近くの佐久千曲川での花火大会も数多くのプログラムのいずれもが素晴らしいもので見事な音と色彩でした。私もあやかりたいと思ひます。

5. 有吉 潤子 「河は呼んでる」「スワニー河」

田村先生生誕100周年を記念して、2曲を指笛演奏させていただきます。何れも私が指笛を始めた頃に出合った曲で、田村音楽院の指笛初等科教本にございます。田村先生のテープをお聴きしながら指笛練習に励みました。「河は呼んでる」では指笛演奏と歌です。

6. 奥津 恭子 「高原列車は行く」「夕焼けこやけ」

今年は指笛創始者田村大三先生生誕百年の記念すべき発表会で少々緊張気味です。先生との思い出は沢山ありますが、先生が剣道の素振りをなさる時のお声は、それはそれは大きくて圧倒された事を昨日の事のように思い出します。今回は童心に返って夕焼けこやけを竹中さんのパンフルートといっしょに演奏させていただきます。「夕焼けこやけ」は現在の教科書にも健在であり、又「高原列車は行く」は明るく軽快な歌ですが、昭和45年に中学3年の音楽教材になったそうです。

7. 牛山 宏隆 「春への憧れ」「春の海」

春の曲を2曲演奏します。“春の海”は、私は40年近く瀬戸内海沿岸の工場地帯で勤務してきましたが、この曲を聴くと、早春の瀬戸内の海の、明け方から夕方までの、やわらかく光りながらも、起伏に富んで変化する情景が目には浮かんできます。数年前より、今度は私が、指笛でこの曲を演奏するようになりました。

8. 武井 洋子 「花のまわりで」「赤い花白い花」

指笛を音楽として吹ける喜び、大三先生の創り上げた世界。指笛音楽の愛好家のみなさま、そして故田村大三先生に「花のまわりで」「赤い花白い花」を花束代わりに感謝を込めて演奏します。

9. 片山 陽一 「花の街」「ピノキオへの手紙」

♪なつかしい～ピノキオ、君覚えてるかい？子供の頃の楽しい日を～♪
なんとなくさびしい夜は～誰かに手紙を書こう幼い日の友達が一番親しい人へ～♪
と歌います。忘れた昔を思いながらカンツォーネを演奏致します。お聴きください。

10. 倉木 成伊知「トゥーヤング」「ルート66」

指笛を始めてから17年にもなりますが、日頃、練習時間がなかなか取れず、いつまでたっても上達しません。発表会が近づくと、カラオケルームなどに通って練習をしています。年1回のこの発表会が大きな励みです。今年も去年に引き続き、アメリカのなつメロシリーズで、ナット・キング・コールが歌ったヒット曲「トゥーヤング」と「ルート66」を選んでみました。若い頃を思い出しながら、楽しく吹けたらと思います。

11. 16. 藤好 清晴 「愛燦燦」「歌の翼に」

「愛燦燦」、6年前に大病した時は指笛が吹ける様になるか不安でしたが、今年も元気に出場出来ることに感謝です。「歌の翼に」、何年か前にもこの曲を試みた事もありますが、吹くことが出来ずに終わりました。今回は息子と一緒に演奏する事にしました。

12. 河津 菊枝 「セレナーデ」「シクラメンのかほり」

大三先生生誕100周年記念の発表会に参加できる事嬉しく思います。先生の“心の叫び”を聴いて感激し大泉学園に通うようになって、早や四半世紀になり、今後は「どの音楽よりも指笛音楽がすばらしい」と言って頂けるのをめざして精進していきたくと思います。今年はクラシックとポピュラーの両方を演奏し納得できそして皆さんが楽しめる演奏ができるよう頑張ります。

13. 竹中 速雄 「めぐり逢い」「釜山港へ帰れ」

田村大三先生に師事して以来指笛を通してたくさんの方々との出会いに恵まれました。それはボランティア活動をしている今でもさらなる広がりを見せています。感謝しかありません。託された強い意思を広く伝えていきたくと思います。

14. 有吉 憲行 「乾杯の歌(ドイツ民謡)」「乾杯の歌」(歌劇椿姫より)」

田村大三先生(1913~2010)生誕100周年を祝して、「乾杯の歌」(ドイツ民謡)を贈ります。この歌は小生が田村先生に師事し、指笛中等科で教わったものです。先生を思い浮かべながら、明るく行進曲風に演奏したいと思います。もう一方の「乾杯の歌」(椿姫より)の作曲者ヴェルディ(1813~1901)は今年生誕200周年です。記念すべきこの年にお祝いとして、この歌を指笛演奏できる幸せに感謝致します。

15. 16. 藤好 真也 「あすという日が」「歌の翼に」

1993年に田村先生をテレビで拝見し、指笛音楽の魅力に圧倒されました。すぐに楽友会へ入会し、半年後やっと音が出ました。それから丁度20年が経過し、様々な施設や催し物で指笛を演奏する機会が与えられ、感謝しています。震災や洪水他、様々な困難がありますが、「あすという日が」ある限り、幸せを信じて指笛演奏を継続して行きたいと思います。私が5年前の発表会で演奏した曲に挑む父親との親子二重奏をお聴き下さい。

17. 笹原 和則 「カッコウ・ワルツ」「夢路より」

2007年以来、私にとっては6年ぶりの発表会です。たくさんの個性豊かな多くの指笛に浸れる機会には、一般の方以上に感銘を受けます。おおいなる天の恵みを頂き、その喜びと感謝を忘れずに励みたいと思います。

18. 村山 壮人 「砂山」「砂山」「ふるさとは今もかわらず」

～指笛が生んだご縁と健康法～

指笛を続けてきて本当によかったと思う。いつでもどこでも人を喜ばせるだけでなく、自然に呼吸法を習得し、あらゆる健康法を学び、そうした専門家とのご縁が新たなご縁を生んできた。演奏を頼まれて行き、喜んで下さる人の笑顔が私を幸せにする。私は指笛音楽が芸術性をさらに高めるとともに、指笛健康法としても社会に貢献できるように追及していきたいと思っている。

19. 斎藤 秀元 「野菊」「影を慕いて」

一曲目は戦時中に親元をはなれて福島県に学童疎開していた時に、学校で習った曲です。日常軍歌をうたうことが多かった中で、すごく心にしみ忘れられない曲となりました。二曲目は田村先生の演奏が私を指笛音楽に惹き込んでくださる契機となった曲です。その後、先生がこの曲を吹かれたことは記憶にありません。しかし想像するに、先生が昭和9年神田神保町で街頭デビューなさった頃は、きっと聴衆からやんやと声がかかっていたのではないかと思います。

20. 中村 倫二 「ここに幸あり」「アイーダ大行進曲」

指笛の世界に飛び込んで早や20年の歳月が過ぎようとしています。年月の多少に拘わらず、皆さんそれぞれに素晴らしい音色をもっておられます。すべての演奏者が求めるのは、最後は自分にしか出せない音色の追及だと思えます。本物の音を求めて今日も感動の伝わる指笛の演奏が出来れば幸いです。

21. 青山 久美子 「口笛吹きと小犬」「希望のささやき」

数多くある田村先生の十八番の中で、ほとんど現役を退かれた80代も後半に、先生ご自身この舞台に立たれ演奏されたのが「口笛吹きと小犬」でした。このお歳でこの難曲を選ばれたとは、と驚いた記憶があります。どうしても先生のように吹けず、難しさを痛感しますが、今回初挑戦してみました。また福島を始めとする東北の復興を願って「希望のささやき」を演奏します。

22. 塩谷 彰宏 「花は咲く」「テキサスの黄色いバラ」

私は、レクリエーション活動を続けて35年になりますが、今年10月に開催される「第67回全国レクリエーション大会・福岡大会」のプログラムの中で「指笛の講座」を担当します。全国から集まる一人でも多くの皆さんに「指笛」を聞いていただくとともに「指笛の吹き方」を覚えていただくことで指笛音楽の普及に努めたいと思っています。

23. 杉田 隆則 「カントリーロード」「上を向いて歩こう」

～指笛をつぶやく～

でかい音、びっくりする音、綺麗で華やかな音、陽気な音、勇ましい音、遠くまで届く音(終戦直前のこと、先生は台湾でモールス通信の練習を山のとっぺんに立って練習させられたとのこと)。細かく超早いフレーズは苦手。音程の高飛びも肋骨(肺式)ではダメで、横隔膜(腹式)で吹く。吹けば福ヨダレが出たら間髪をいれず拭く。ダメならそのまま吹く。元気度が音色を左右、アウトドアで吹けば有酸素運動と腹式呼吸。指が湿ってくるとよし。音量と感情移入は他と比べるとそのポテンシャルはダントツで指笛というより指声なり。

24. 水沼 武彦 「フィンランディアより聖歌309番」「鳥の歌」

田村大三先生は、指笛音楽を創始し、さらに、高い芸術の域にまで高められました。

1969年、文部省の文化庁が主催する芸術祭参加公演に田村大三先生の指笛が承認されたのです。このことをご生誕百年に思います。

ピアノ伴奏者：石塚 幸子

本日は、指笛音楽研究発表会の開催、誠におめでとうございます。
7年前に初めて共演させていただいてから今回2度目になりますが、出演者の皆さんの指笛の成長はもちろん音楽を愛する気持ちを感じ、練習から、私も楽しく参加させていただきました。今日は指笛の響きがこの会場いっぱい広がるよう、私も精一杯弾かせていただきます。

略歴 … 4歳よりピアノを始める。東京音楽大学付属高等学校、同大学ピアノ科卒業後、同大学院器楽科鍵盤楽器研究領域修士課程修了。2001年第12回彩の国埼玉ピアノコンクール銀賞受賞。2008年第10回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA 神奈川大会金賞受賞。
これまでにポーランドクラクフ管弦楽団、チェコ国立放送管弦楽団とコンチェルト共演。
現在は声楽伴奏を中心にソロ・伴奏・室内楽等の演奏活動をしている。